



社会福祉法人 松柏児童園

西台こども館



第7号

平成24年3月

〒174-0045 東京都板橋区西台 1-27-10 電話：03-5920-1122、Fax：03-5945-4152

HP： <http://shouhaku.jp/> E-mail： info@shouhaku.jp

編集・発行 西台こども館

□□□こどもたちへの想い

齋藤学 □□□□□□□□

36年ぶりに児童福祉施設最低基準の見直しがおこなわれました。児童養護施設の配置基準は条件付きで一部引き上げられ、居室等の広さ、職員、園長の資格についても改正が行われました。

また、小規模化にむけた施策や里親支援にむけた施策等が国の予算（案）に盛り込まれています。

児童入所施設措置費関係では昨年度を58億円も上回る893億円の予算計上とのことです。厳しい財政状況下においても、社会的養護の充実が不可欠との認識が高まっている証拠だといえます。予算が増えることで制度が充実し、こどもたちの生活が少しでもより質の高いものへと改善されていくことはなによりです。

一方、平成23年8月東京都福祉保健局発表の「東京都における児童養護施設等退所者へのアンケート調査報告書」では最終学歴は高校卒が58.3%ともっと多く、次いで「中学卒」が23.4%でした。大学卒等（4年生大学、短大卒、専門学校卒）は15.1%にすぎません。東京都全体（総務局平成22年度学校基本調査報告）の進学率は高校が98.0%。大学等への進学率は65.4%であることから、児童養護施設の子どもの高校、大学等への進学率は相当低い数字となっています。

最近は様々な団体からの奨学金、行政からの支援も充実し、大学等への進学も徐々に増加しているようですが、本質的な問題は、それなりに手厚い保護下で生活していた子どもが、18歳になるとこれまでの支援が一切なくなり独立して生活することを余儀なくさせられることです。せめて、成人になる20歳まで、或いは大学を卒業するまでそれまでと同じような支援が出来ないものかと切実に思います。住まいと食事の支援だけで十分だと考えます。

また、同調査によると退園後に困ったとき、主に誰に相談したか？との質問の答えとして「園の職員」との答えが40.0%と一番多くなっています。2番目は「誰にも相談しなかった」が16.8%となっています。「園の職員」40%をどう評価するかは別として、全体的に相談する相手がいないことがあきらかになっています。社会に出る前の重要な時期に子ども達と生活をともにし、一緒に笑い、時に怒り、そして喜び、涙を流してきた「園の職員」の退園後の支援継続が不可欠であると思います。

西台こども館でも、今年度3月末で卒園する高校3年生の児童が2名います。約3年半前、開園して数ヶ月後に入園した2人です。中学3年生の夏に西台こども館に入園し、転校後十分な時間もないままに高校受験に挑み、希望高校に見事合格。高校生活を謳歌していた2人が、この春には松柏福祉財団（平成23年9月設立；卒園者の宿舍、奨学金の支援を行う）等からの支援を受け進学・就労し、園を巣立っていきます。西台こども館での生活や出来事がこども達の思い出としてだけにとどまることなく、「夢」に向けて、未来を切り拓くエネルギーとなってほしいと思っています。

ボランティアさんとの交流

七五三



★着付けボランティアさん★

七五三の時に着付けをしてもらいます。
女の子は着付けだけでなく、更に可愛くヘアメイクも
してもらいます！

書き初め



★習字ボランティアさん★

毎月2回習字を教えてもらいます。
年始には書初めも行いました。

ボランティア交流会



毎年3月にはボランティアさんとこども館との
ボランティア交流会を行ないます。ゲームや
出し物などで皆とても盛り上がります！
今年は3月4日（日）に7名のボランティアさんの
参加をいただき賑やかに実施しました。

その他にも、学習ボランティア・遊びボランティア・カットボランティア・ピアノボランティア・
絵画ボランティア・掃除ボランティア等、様々なボランティアの方々にお世話になっています。

●いつもお世話になっているボランティアさん

(学習)大学生、社会人、主婦の12名の方々に登録頂き、10名が活動中

(遊び)3名、大東文化大ボランティア同好会、カットボランティア SAN's FIN、(習字)高木さん

(ピアノ)鈴木さん (演奏会)東京音大アクトプロジェクト、LG ジャパン株式会社ヤングボードの皆さん

ボランティアのお問合わせは、津田・渡邊まで

ユニット紹介

「まつ」のこどもたち

子ども「オレの靴下がない!」、大人「このパンツ誰の?」。大人「ほら、もう寝る時間だよ」
子ども「まだいいじゃんか」「まつ」でよく聞かれる会話です。

4月から、「まつ」は大きな男の子を中心とした生活が始まっています。12人で生活できるスペースに幼児さんが3人、小学生が2人、中学生が4人、高校生が2人と、11人全て男の子(!)で和気あいあい、たまに大ゲンカをしながら生活をしています。

大人は2人の男性職員、2人の女性職員です。縫い物が得意な職員、子どもと共通の話題で盛り上がる事が出来る職員、自分の家庭での子育てを活かしながら子どもと関わる職員がいたり色々な「得意な事」を持っている職員が子ども達と生活を共にしています。

「生活の時間を守る」「暴力は一切禁止」。そんな約束を子ども達全員としました。寝る時間が12時を過ぎてしまったり、1日中騒がしくなってしまうたり。なかなか落ち着かない日が続きましたが、子ども達との話し合い、職員の話し合い、周りの職員のフォローのおかげで、「今は大分落ちついて来たかな」という状態になっています。

幼児さん含め、小さい子ども達もたくましく育っています。お絵かきをしたり、近くの大きな滑り台のある公園へ行ったり、お小遣いで好きなおもちゃを買ったりと、楽しく笑顔が見られると職員も元気をもらえます。

皿を割ったり、何かをこぼしてしまったり。そんな事があると、さっと拭いてくれたり片付けてくれる。そんな中高生の姿を見ると「ああ、「まつ」の子どもはいいなあ」と思います。そんな良い雰囲気「まつ」になるように、職員も子ども達と生活を共にしていきたいと思っています。

「女の子ユニットもみじ」

もみじユニットは女の子だけのおうちになって約1年になります。3歳から小学6年生までの8人のおうちで、お部屋の中ではAKBの歌がよく流れており、各々のマイクを持ち、ある子は積木、ある子はチャンネルなどアイドルになりきり歌ったり踊ったりしています(5頁クリスマス会の写真)。

またファッションや髪型に興味があり、幼児さんでも誰かが髪を切るとすぐに気付き、「〇〇ちゃんかわいい」といったり、他の子どもの洋服をチェックしては「かわいい」「それ変じゃない」など女の子らしい発言が聞こえてきます。

現代の女の子らしい、負けん気が強く、こだわりも強く、頑固な子が多く、泣いて反発したり、怒って反発したりと男の子もたじたじになるような強さも持ち合わせています。これからは外見以上に内面をもっともっと磨いて内面から輝く女の子になってもらえたらと思っています。

避難場所について

西台こども館では毎月災害を想定した緊急避難訓練を行っています。実際に避難が必要な災害がおきた場合には園の敷地内に一時避難をします。その後必要に応じて板橋区指定の避難場所(志村第五小学校)や広域避難場所(都立赤塚公園付近)に避難します。

「いちょうユニット」

いちょうユニットの子ども達は、読書やお絵かき、工作などを好む子どもが多く、穏やかなユニットです。また、食事の配膳などを積極的に手伝ってくれる子どもも多く、「これお願いね」「うん、いいよ」「ありがとう」といった職員と子どものやり取りが自然に見られる面も、いちょうユニットの良さだと感じています。しかし時折、子ども同士の自己主張がぶつかり合い、けんかに発展する事もあります。

そのときは「話し合いで解決できるように」「譲り合う大切さ」などを状況に応じて分かりやすく子ども達に提示しながら振り返りを行い、解決できるよう支援しています。

これからも良いところをたくさんもっている、いちょうユニットの子ども達の成長を見守り続けていきたいと思えます。

入学します おめでとう

平成24年4月、8名の新入生が誕生します。

- (1) 女の子Hちゃん、Rちゃんと男の子D君が徳丸幼稚園に入園します。
- (2) 男の子H君、女の子Rちゃんが志村第五小学校に、男の子K君徳丸小学校に入学します。
- (3) 新中学生には、男児H君、女児Aさん・Sさんが西台中学に入学します。
- (4) 男児T君、女児Mさん・Nさんが新高校生になります。

新たに入職した(する)職員

よろしくお祈いします

渡辺美千代 保育士

平成24年1月1日採用

4月1日「いちょう」ユニット
「久しぶりに児童養護の世界に戻ることができ、毎日ワクワクしながら働いています。笑顔と元気を忘れずにやっています。人を活かし、人に活かされる日々でありたいと思っています」

一ノ瀬亮 保育士

平成24年4月1日

入職予定「かしわ」ユニット
「子どもたちは経験することで学んでいきます。ゆとりを持って子どもたち一人ひとりの些細な変化や成長に気づき、適切な対応ができるような援助を目指します」

高橋和久 保育士

平成24年4月1日

入職予定「まつ」ユニット
「児童養護施設での経験は少ないですが、その分他の職場で沢山の色々な子供たちと関わってきました。これまでの経験を活かし、持ち前の明るさで頑張ります」

卒園・家庭復帰児童(24年3月)

- 3月17日年少女児 K.H 家庭復帰
- 3月23日中1男児 K.Y・小6女児 K・Y 家庭復帰
- 3月23日小6男児 K.R 家庭復帰
- 3月末日高3女児 I.S、S.M 卒園

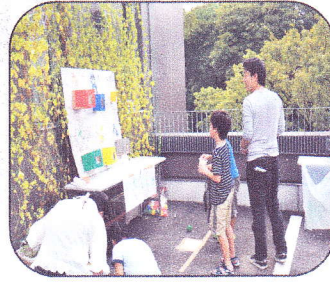
新規入園児童(23年9月～)

- 23年12月13日小1女児 N.M
- 24年1月31日3歳女児 O.R
- 24年3月末予定15歳女児 I.N、新小5男児 K.K、新年少男児 T.D

主な行事(平成23年9月～24年3月)

草間市長と N
ちゃん、R ち
ゃん

○9月19日；西台こども館 バザー⇒売上+義援金 15万円超 全額高萩市
(草間市長)に寄付(10月3日)



○9月21日；東京都財政援助団体等監査⇒文書指摘事項なし

○9月29日；一般財団法人松柏児童福祉財団設立⇒西台こども館卒園者の支援などを目的

○10月22日；志村第5小学校「わくわく祭り」参加⇒ヨーヨー釣り

○10月24日；平成23年度第2回理事会

○11月13日；第3回第三者委員会(澤田委員)

○11月21日；理事長卒園予定児と会食・懇談(池袋)

○11月27日；江戸っ子杯サッカー

⇒残念ながら予選リーグ2敗で終わる



○11月29日；東京都福祉保健局指導監査部・実地検査指導⇒文書指摘事項なし

○12月6日；園内研修「共感疲労の最適化水準モデルとファンクションニング(援助者の機能)」藤岡孝志
(日本社会事業大学、西台こども館第三者委員)⇒職員の課題の核心に迫る素晴らしい研修となりました。

○12月25日；西台こども館 クリスマス会(新井理事長ご夫妻他関係者多数参加いただき、子どもたちの
出し物(手品、踊り、ダンス、紙芝居等)、ビンゴゲームなど大いに盛り上がりました)

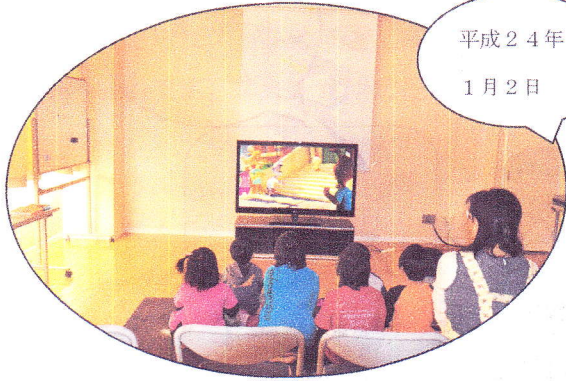


○12月28日；西台こども館 餅つき⇒志五小関口校長他多くのご近所さんも参加いただきました。

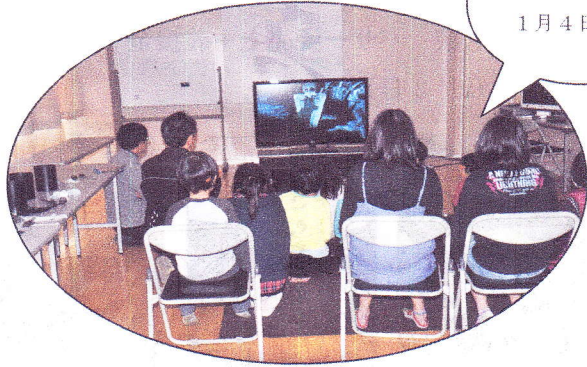


こどもたちの未来のために

○お正月こども館3D映画会 (LG 電子寄贈の大型3DTV 及び3D ディズニー映画ソフト)



平成24年
1月2日

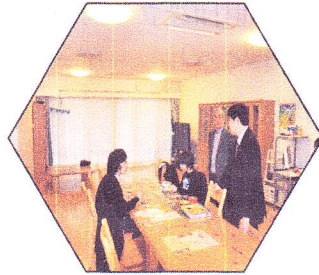


平成24年
1月4日

○平成24年1月17日(火) 松柏児童福祉財団宿舍新築工事地鎮祭(司祭;天祖神社)

○2月8日;草間吉夫高萩市長来園、D君激励

○2月15日;園内職員研修「理念に根ざした支援を
目指して」
(尾崎眞三講師)



○2月26日;第4回第三者委員会(田口、澤田、藤岡委員)

○3月11日;卒園生を祝う会

○3月4日;ボランティア感謝の会



○3月15日福祉サービス第三者評価結果提出受ける(評価機関:(株)IMS ジェイパルこども館は、現在小1~小6
⇒本年度の第三者評価は平成23年10月から24年2月にかけて「利用者調査」「職員アンケート」
「経営層アンケート及びヒアリング」を実施しました。評価結果は「とうきょう福祉ナビゲーション」
によりインターネット上で公開されます。

○3月26日;平成23年度第3回理事会(補正予算、H24年度事業計画、予算案他)

ありがとうございました (平成23年9月～24年3月)

《寄付金》

小林健一、佐藤正昭、中島幸子、立澤岫子、伊藤康治、新井隆司、出光文化福祉財団

《寄贈品》

(三菱UFJ信託銀行(株)、健栄製薬(株)、志太勤一(シダックス(株))、松田利之、LG エレクトロニクスジャパン(株)、朝日税理士法人、全国シャンメリー協同組合、(株)チュチュアンナ、神楽サロン出版、伊藤康治、三菱東京UFJ銀行池袋支店、(株)メリーチョコレートカムパニー、日本出版販売(株)、毎日新聞東京社会事業団、(株)プレナス(ほっともっと)、(社)東京馬主協会、茂木貴広、東京善意銀行、(株)ヴォリオスエンタテイメント、鈴木達彦(LG 電子)、山田登、湯本善之、宮嶋宏幸、安井豊明、新井希衣子、子供に伝えるクラシック製作委員会、竹内兄弟・内田・白石、日本ミート販売(株)、(株)ヒト・コミュニケーションズ、りそな銀行池袋支店、M・FACTRY、(有)エスプランニング杉崎厚子、(株)朝日新聞出版、セカンドハーベストジャパン(松崎)、NPO 法人「松柏緑の大地」、内海哲也ランドセル基金、

《招待》

東京都個人タクシー協同組合板橋第一支部、我山荘、(株)フューチャー・エコロジー、西台図書館
(順不同・敬称略)

● 西台こども館児童在籍状況(平成24年4月1日予定)

	3 未	年 少	年 中	年 長	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	計
男		1		3	2	1	1		4		1	1	2	2	1		19
女		2	1	2	1	1	3		3	1	2			2			18
計		3	1	5	3	2	4		7	1	3	1	2	4	1		37

西台こども館在籍職員一覧(平成24年4月予定)

(園長)齋藤、(事務長)竹田、(事務)岸本、(統括主任)津田、(FSW)森脇、(心理)田中
(ユニット担当)「かしわ」石川・太田・山野・一ノ瀬 「もみじ」 松山・堀欠・吉江・飯尾
「まつ」 西松・大貫・渡邊・高橋 「いちよう」渡辺・野呂・石井・坂本
(自立支援コーディネーター)木村 (栄養士)丸山 (調理)田島・高山・下屋敷・水殿
(専門機能強化)立澤(医師)、川口(児童指導員)、田村・内藤(治療指導員)
(パート)内田 (嘱託医)大山

「心理室から」

○児童養護施設に心理職が配置されたのは1999年だそうです。西台こども館では発足時（2008年3月）から心理職、2009年から治療指導員2名が配置され、施設内の心理職の在り方や処遇職員との連携について常に模索しながら取組んで来ています。子供たちと一定の距離をおくことが必要であり、生活支援にもかなりのニーズもあります。この最適なバランスを求め、処遇職員との信頼関係のもと日々奮闘しています。

内藤

治療指導員の内藤です。社会人となって、そして西台こども館で働き始めて1年になります。学生時代に心理学を学んで来ましたが、日常生活を営む場所に入って自らの専門性を活かしながら子どもに関わるという勉強は残念ながらほとんどできず、先達に話を聞きながら手探りで仕事を覚え、あっという間にすぎた1年です。

その中で子どもたちと遊んだりしながら同じ時間を過ごし、ときどき子どもたちがぼつりと漏らすちょっとした「一言」に関心を向け、詳しく話を聞いていくように努力してきました。その関わり方や関心の持ち方にはきっとユニット職員と違う部分があり、子どもたちもそれを敏感に感じているように思います。その『違い』を生かしながら、子どもたちの気持ちを知っていきたくて関わらせていただいています。

田村

「〇〇さんって、もしかして××が好きなのかなあ?」「△△くんは、こんな時によく嫌になっちゃうよね。」「□□さんは、今すごく寂しそうに見えるんだけど…。」。子ども達が生活しているのを見ながら、あの子はどう考えているのだろう・何を感じているのかな…、そんな事を考えて声掛けをしていると、いつもとは違う表情を見せてくれたり普段は話さない話をしてくれたりする事があります。そんな時に色々な相談に乗ったりする、それが西台こども館での治療指導員の仕事の一つです。

西台こども館では臨床心理学を学んだ職員が『治療指導員』として、子ども達の日常生活に関わっています。他の職種の方々の関わりとは違う面が、子ども達にも感じられるようで、「へんなオジサンだよ、田村さんは…。」「こんな大人会ったことなかったよ。」と子ども達から言われることもあります。日常生活の中で気持ちや感情にフォーカスを当てながら関わることで、気持ちを察してもらったり通い合わせたりすることの嬉しさ、楽しさを感じてもらえたらいいなと思いながら子どもの支援をさせて頂いています。

田中

ワケあって子ども時代のいつときを児童養護施設で暮らさねばならぬ子どもというのは、それはそれは複雑な思いや様々な問題を抱えざるを得ないわけでした。その多くはやむにやまれぬ親御さんとの関係から生じたものだったりするんですけども、子どもらの日々の変化や成長を見て思うのは、人との関係から生じた問題は、やはり人との関係の中でほぐされ、緩み、解消されていくのだなあということ。最近、特に痛感している次第です。

編集後記：無我夢中の2年間でした。次の世代に引継ぐという役割は何とか果たせましたが、児童養護施設の園長としては、こどもにとっても職員にとってもはなはだ頼りなく、物足りないことだったと思います。都内とはいえ、日当たりがよく、木々の緑に恵まれ、小鳥が飛んでくるという恵まれた自然環境で仕事できたことは幸せでした（片道1時間45分の通勤時間を除けば）。親御さんと離れて生活せざるを得ない子ども達を育てるという極めて困難な仕事を多くの職員が支えている。今年度末で卒園児童が2名、家庭復帰児童が4名そして新規入園児童が4名となります。様々な動きの中に一人ひとりの子どもそして職員の成長が実感できる2年間でした、ありがとうございました（田宮）